

肥満症という疾患概念の 意義と診断基準

国立国際医療研究センター 春日 雅人

KEY WORDS

- BMI
- 内臓脂肪型肥満
- MHO

Obesity disease: its concept and diagnostic criteria.

Masato Kasuga (名誉理事長)

I. 肥満症という疾患概念が 提案された経緯

日本肥満学会の肥満症診断基準検討委員会は2000年に、委員会報告を発表している¹⁾。この委員会報告では、肥満をBMI[body mass index：体重(kg)÷身長(m)²]で判定する場合、肥満に関連する各種健康障害の合併は必ずしもBMIだけで規定されるものでなく、他の要因、たとえば体内における脂肪分布などによっても規定されることを明記している。したがって、この委員会報告では、単に身体状況として捉える肥満と、肥満に起因ないし関連し減量を要する健康障害を有する「肥満症」とを明確に分類することが、医学の分野ではきわめて重要なことであるとして、「肥満症」なる概念とその診断基準を提唱し、2002年にはその内容を「Circulation Journal」に英文で発表した²⁾。その後、日本肥満学会では、2006年に「肥満症治療ガイドライ

ン2006」、2011年には「肥満症診断基準2011」を発表し、2016年には「肥満症診療ガイドライン2016」を刊行した。この間、肥満症に関する考え方は一貫して引き継がれてきている。

II. 肥満症の診断基準

肥満(BMI \geq 25kg/m²)と診断されたもののうち、①肥満に起因ないし関連し、減量を要する(減量により改善する、または進展が抑制される)健康障害を有するもの(健康障害は現時点では11種である)(表)、または②健康障害を伴いやすい高リスク肥満として、ウエスト周囲長によるスクリーニングで内臓脂肪蓄積を疑われ、腹部CT検査によって確定診断された内臓脂肪型肥満のいずれかの条件を満たす場合に肥満症と診断する。